

授業の心理学 指導案

授業者 竹内 遠藤 三浦

1 テーマ

P-F スタディ(Picture-Frustration Study)

2 本時のねらい (本時 1/1)

P-F スタディの活動を通して、欲求不満場面における反応の違いに興味・関心を持つことができる。

3 展開の視点

- ・P-F スタディを模した投影法による質問紙を使い、欲求不満事態への反応を体験させる。
- ・答案を発表しあうことで、各々の答えの違いから「外罰型」「内罰型」などの反応傾向の違いに気づき、実感させる。
- ・欲求不満場面における反応の型は多様であり、社会的に適応した生活を送るには、外罰、内罰、いずれの傾向も適度に必要であることを知ることで、自分自身の傾向に興味・関心を持たせる。

4 本時の展開

時間	学習活動	○教師の支援 ◆評価
2	<導入> ・P-F スタディについて知る。	○ P-F スタディを模した質問紙を配る前に、答案を書く際に相談できないように離れて着席させる。 ○ P-F スタディについて説明する。
10	<展開> ・P-F スタディを模した質問紙を実際に行う。 ・出来上がった答案を発表する。 ・出来上がった答案をみんなで3つのグループに分ける(外罰、内罰、どちらでもないもの)	○ 発表を終えた答案用紙を黒板に貼る。 ◆ どうしてその答えになったかきちんと理由も発表できるか。
8	<まとめ> ・反応の型である「外罰型」「内罰型」についてそれぞれ知る。 ・「これからはどうしたらいいのか」という観点に立ち、もう一度テストを	○ 各反応型を説明する。 ◎ 「外罰型」「内罰型」どちらの傾向も適度に必要な事を説明する。 ◆ 二回目の発表内容より、外罰、内罰、どちらの傾向も大切であることに

	行い、発表をする。	気づけるか。
--	-----------	--------